

# 提携米通信

2011年6月号・黒瀬農舎

悪天候です。でも田植えに頑張っています。



狂ってしまった天候は5月もほとんど回復しませんでした。

低温が続いて、先月号で予想していたように我が村自慢の桜ロードのソメイヨシノは連休最後の5月8日まで咲いていました。

その上雨が多く田圃がぬかるんで

田起しがなかなか出来ず、また、低温続きで苗の生長が大幅に遅れ、付近の農家はみんなイライラしながらの春作業です。

我が家の田植えは、10日ほど遅れて5月27日にやっとスタートしました。

しかし、例年の田植え作業は、1週間ほどで一気に終わるのですが、今年は比較的条件の良い田圃を選んで作業を進めているので、まだ田起しが出来ていない田圃も残っており、全部の田植えがいつ終わられるのかの見通しが立たない状態です。

昨年の田植え時期も、寒くて困るなど近年は「異常気象」の連続ですが「異常」の記録は年ごとに深刻化しているようで何だか恐ろしい気持ちになります。

ところで、すでにご案内のように、最近隔年実施にしています、我が農舎の田圃公開と白神山地のブナ新緑ツアーを来月の第一土日に行います。

白神のブナ林は例年でも雪解けが遅く、今頃はまだ残雪が残っている時期ですが、ブナ新緑ツアーを予定している7月3日には林道も開通すると思います。

また、この頃になると我が農舎の田圃は初回の草取りも一段落した頃で、いま田植え準備や田植え作業に苦労している姿とは一変して緑一面になっているはずだと期待しています。

時間が取れる方は、この機会に気分転換を兼ねて是非ご訪問下さい。

また、我が農舎のロッジは10名程度は宿泊できます。震災の避難受け入れ体制をしていましたが、希望者がいらっしゃいませませんでした。この催しには都合のつかない方は、夏休みなどにご家族でどうぞお気軽にご活用下さい。

## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

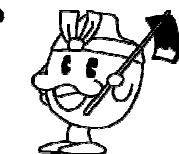
秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友 基

Tel 0185-45-3088

Fax 45-2887

E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com) HP検索:



黒瀬農舎

☆そろそろ暑い時期を迎えます。お米が余った時は、遠慮なく早めにバスや減量の連絡をお願いします。

## 農政と原発 「国策」に甘い負の文化

この度の地震・津波は実に悲惨で被災者の方にはお慰めすることばありません。

また、福島原発事故は「原発は安全だ。」という前提で推進された筈ですが、その前提があっけなく崩れ、処理対応も出来ずイライラがつのります。

ところで、菅総理は、原発被害者に対する賠償問題で「国策としての原発による被害だから国が責任を持つ」と言っていますが、原発は危険だということが明確になったにも拘わらず政策判断自身についての間違いや反省は全く認めようとしていません。これは現菅政権の問題でもありますが、それだけではなさそうです。

原発は、地域住民が拒否した所にはありません。「国策の強い流れに乗った方が特だ。」「交付金や地域振興の恩恵がある。」などと誘致や設置容認の知事や首長を住民が選んだ地域にだけ原発はあります。すなわち市民が選んだのです。

また、私たちの国では一般に「国の政策・国策」と位置付けられた事象に対して、一部の市民や学者から疑問や反対があっても、それは過激な偏向主張<sup>へんこう</sup>だとして、新聞TVもほとんど取り上げず世間も黙殺<sup>もくさつ</sup>する「負の文化」も作用しているようです。

もう何年も前に読んだ北川元三重県知事の本に、芦浜原発設置のメリット／デメリットの検討を県職員に指示した際に、国策である原発のデメリットを発言する職員が皆無。そこで「国策は関係ない。県にとって有利か不利かをゼロベースで討議せよ。」と賛否2派を作ることでようやく実のある討議が出来た。という話がありました。

私は、長年食管や減反<sup>げんぱん</sup>或いは所得補償<sup>しよくぼしょう</sup>など農政に異議を唱えています。この経験から、常々国や自治体の子役人の本性に手を焼いてきた者として、この北川氏のエピソードはよく理解できるどころです。

このことは、役人だけではありません。国の農政が間違っていると判っていても、その農政が続く限り、愚痴<sup>ぐち</sup>や枝葉末節<sup>しやうまつせつ</sup>の批判はしても、真<sup>ま</sup>っ向からの批判や否定をする覇気<sup>はき</sup>や勇氣のある農政学者や評論家に出会ったことは一度もありません。彼らは農水省の審議会の委員委嘱などを常に期待したり、流れに乗ることで我が身を守るという習性から逃れられないのです。

「国策原発」も、官僚や原発誘致の地域市民だけでなく、財界、業界、政治家、学者までもこぞってこの悪循環を繰り返す「日本の負の文化」をしっかりと身につけて、少しでも有利で安全な立場にいたいという本能・本性<sup>しほん</sup>に縛られているようです。

また、最近のマスメディアは、どの新聞やTVを見ても大本営発表を載せる公報に過ぎず頼りになりません。

この悪循環を断ち切るのは、私たち市民自身が「国策」を信じたり、国策で甘い汁を吸おうと不埒<sup>ふらち</sup>な姿勢を転じて、自ら汗を流して考え判断し、判断が間違った時には、その判断の結果に自身が責任を感じ、次ぎに生かす自律心を高めるしかないようです。

また、原発建設というミスリードをした政権や地域の首長や議員を非難する前に、その人々を選んだ私たち市民自らの責任を自覚し反省することが大切のようです。